



「図書館に行こうよ ―新米司書館長の図書館日記―」 026

Title: こども読書イベントが目白押し

あったかすぎる陽気に不安を覚えないでもない北国の春ですが、満開の桜はやはり心を浮き立たせます。日が長くなって図書館も明るく感じる春、人々を足止めした大雪の冬を越え、利用者の皆さんが戻ってきてくれたようでうれしく感じる今日この頃です。

❖ こどもの読書週間始まる

きのう23日は「サン・ジョルディの日」、そしてシェイクスピアとセルバンテスの命日（ともに1616年没）でした。それにちなんで、ユネスコはこの日を「世界図書・著作権デー」と決めました。1995年（平成7年）のことです。日本でも2001年（平成13年）に、この日が「子ども読書の日」と定められました。

関連して4月23日から5月12日までは「こどもの読書週間」です。週間といいながら20日間もありますが、それはともかく、運動としてはこちらのほうが古く、昭和39年に始まっています。期間中全国で子どもの読書活動推進のための行事がいろいろ行われ、去年は全国で1714の主催者が何らかのイベントを行いました。

大館市立図書館でも、展示や読みきかせなど子どもたちに本の楽しさを伝えるためのイベントを、4館それぞれに行います。花矢図書館の読みきかせイベントは昨日でしたが、各館の展示は期間中行なっていますので、ぜひお子さん連れでお越しください。

ゼロ歳児に絵本をプレゼントする27年度の「ブックスタート」も始まりました。春は子どもと本と笑顔の季節です。

❖ 「おはなし隊」がやってくる

花矢図書館に5月14日（木）、講談社の全国訪問「おはなし隊」キャラバンカーがやってきます。大型バスほどの大きなキャラバンカーが全国を巡り、子どもたちに「おはなし会」と車内に積み込んだ「絵本の自由閲覧」の2本立てで本の楽しみを届けてくれます。おはなしの対象は2歳から8歳くらいまでの子どもたちですが、興味のある方ならどなたでも歓迎します。10時30分からと11時5分からの2回に分けてイベントを行います。こちらもぜひ子ども連れで。

❖ 名前の読みは難しい

つい先日、名前の読みについてビックリする出来事がありました。

ルポライター・評論家の竹中労をOPAC（オンラインで検索できる目録です）で検索したら、大館市立図書館も秋田県立図書館もヒットしないのです。いや、県立は1冊ヒットしたのですが、それは竹中労についての本で、本人の著作ではありませんでした。亡くなったのが1991年（四半世紀近くも前になるのか…）なので図書館の所蔵数も減ってはいるだろうけど、ゼロはないだろうと思いますよね。

で、試しに漢字で入力すると、今度は出てきました。県立が6冊、大館は5冊。ちなみにOPACで検索する時は、確率が高いので概ねかなで入力します。そして（検索結果一覧の中のタイトルをクリックすると現れる）書誌事項を開いてビックリ。著者

名が「たけなかりょう」ではなかったのです。労は「つとむ」、これが本名でした。しかしあの時代（70年代とかです）、テレビ・ラジオも含め誰もが「ろう」って言ってたよね。

でも、これでいくらか納得できました。OPACの検索で出てこないのにその本を書架で見つけることが時々あるのは、こういうことだったんだ。つまり、こちらの読み間違い。少しぐらい違って入力してもこっちじゃありませんかと候補を出してくるアマゾンとかのサイトに比べて、図書館のOPACはあまり融通がきかないのです。

とにかく日本語の人名は面倒くさい。名字がめったやたらに多いし、読み方が複数あったりするし、文字の制限はあっても勝手読みができるし。ということで、最近読みで戸惑った例を最後にいくつか。

高橋秀実（ノンフィクション作家）は「たかはしひでみね」。最後の「ね」は誤植ではありません。

島本理生（作家）は「りお」、鈴木理生（歴史学者）は「まさお」。

兼子仁（法律学者）は「かねこまさし」。

鈴木皇（物理学者）は「すずきただす」。

柴崎友香（作家）は「しばさきともか」。意外に「ともか」が思い浮かばなかった
ので。（陽）